

「ホームステイ・ビジット 受け入れガイド」



市川市国際交流協会 I.I.A.

ICHIKAWA INTERNATIONAL EXCHANGE ASSOCIATION

はじめに

ホームステイとは、来日した青少年を日本の家庭に迎えて生活を共にすることです。青少年は日本人の家庭の一員として一緒に時を過ごすことによって、普段着の日本人に出会います。また、ホストファミリーとなってくださった皆様の家庭も、青少年を通して異文化を体験することになります。ホームステイは青少年たちにとって日本人を知る貴重な体験となります。

ホームビジットとは、皆さんの家庭に日帰りで訪問して頂き、気軽に数時間ティータイムを楽しく過ごして頂きます。海外の方に、日本人の家庭を垣間見る良い機会となります。ホストファミリーとなっていただく皆様との間に国際交流の場が大きく広がることを願っています。

目次

1 事前の準備

- (1) 心構え (2) 住宅の環境 (3) 言葉について・・・・・・P3

2 ゲストを迎えて

- (1) 初対面するとき (2) 家庭に迎えたとき (3) 食事 (4) 食後
(5) 手伝い (6) 外出するとき (7) お別れするとき・・・・・・P4

3 その他

- (1) 費用について
(2) 病気や怪我など緊急のとき・・・・・・P6

4 ホームステイを受け入れたホストファミリーのひとこと・P7

5 ホームステイした青少年のひとこと・・・・・・P7

1 事前の準備

(1) 心構え

「青少年は家族の一員」という気持ちで温かく迎えてください。日本人の普段の生活を見、体験してもらうのですから、「お客様」扱いや特別な準備は不要です。親戚の子供がとまりに来た時のように、共に食事しおしゃべりし遊んだりしながら家族ぐるみの交流を心がけてください。家族全員で快く迎えてあげることと、無理をして日常のリズムを崩さないように気をつけましょう。

(2) 住宅の環境

日本の住宅の狭さを心配して、ホームステイの受け入れに不安を感じる方がいますが、日本人が心配するほど海外の方は気にしていません。ゲストが青少年の場合、家に子供がいれば相部屋でも子供同士の親近感を増すこともあります。寝具はベッドでなくてもかまいません。むしろ日本的な布団が珍しいと楽しみにされている方もいます。お風呂は最近シャワーで済ませるか方が多いようですが、和風のお風呂も珍しいと思います。場所や使い方を最初に説明してあげましょう。

(3) 言葉について

青少年は、母国の言葉の他に基本的な英語を話します。もし言葉で不安を感じていてもあまり心配は要りません。大切なのは「言葉」よりも伝えようとする「こころ」です。知っている英単語を並べたり、身振り手振りや絵・筆談を交えれば何とか通じるものです。笑顔で相手の顔を見ながら、日本語で話してみましょう。ゲストの国の「こんにちは」「ありがとうございます」など、簡単な言葉を使ってあげるととても喜ばれます。



2 ゲストを迎えて

(1) 初対面のときに

初めて対面する日は、とても緊張するものです。しかし、青少年は皆様よりもっと緊張し不安でいっぱいです。相手に安心感をもたせてあげるように笑顔で挨拶しましょう。簡単な家族紹介とお互いの呼び方を確認するのも良いでしょう。

(2) 家庭に迎えたとき

家の中を案内して泊まる部屋、トイレ、洗面所、お風呂など使っていい部屋を案内します。日本の家では、必ず靴を脱いで上がることを説明します。

お風呂は、国によって時間や入り方が違いますので、シャワーにするか湯船を使うか希望を確認しても良いでしょう。宗教上でお祈りのつどシャワーを使われる方もいます。

お風呂に入る時は、湯船の外で体を洗って入ること、お風呂の栓は使った後も抜かないでおくことを説明しましょう。

トイレは、ウォシュレットに戸惑うことも多いようです。実際に操作してみせるとより理解しやすいでしょう。

他に、食事の時間・入浴の時間・寝る時間・朝起きる時間・帰宅時間などの確認と、家庭のルールがあればはっきり伝えておきましょう。

(3) 電話・インターネット

トラブルになりやすいのが電話やインターネットです。最近では、国際電話用テレホンカードやスマートフォンなど持参しています。インターネットの使用は、個人情報流出やウイルス感染のリスクを伴いますので、心配なご家庭では使用できない旨を伝えましょう。



(4) 食事

普段の家庭料理を準備してください。特別な料理よりも、家族全員で楽しく普段どおりの食事をするのが、最大のおもてなしです。

せっかく日本に来てくれたのだからと、日本食をあれこれ紹介したいものですが、ゲストによって食生活の違いや、宗教上の理由、アレルギーなどから食べられない場合があります。健康や食事に制約のある場合、事前に連絡いたしますので、再度本人に食の好みなどきいて準備されるといいでしょう。

アルコールやタバコは、ゲストに必ず確認し、また宗教上の注意点など配慮が必要です。

(5) 食後

食後は、家族で話したりテレビを見たりゲームなどでゆっくりと過ごさせてください。緊張や長時間の移動などで疲れている場合がありますので、早めに休ませてください。



お手伝い

手伝いを申し出たときは気軽に手伝ってもらってください。母国の料理をホストファミリーに作りたいと希望することもあります。母国のことを紹介する良い機会ですし、一緒に何かをすることは家族に溶け込むきっかけになります。

洗濯物があるときは、洗濯機の使い方を教えるか、家族とは別々に洗濯してあげてください。

(6) 外出するとき

事故防止の観点からも、基本的にはご家庭内及び市内程度での交流を中心として遠方への外出及び一人での外出や個人行動は控えていただくようお願い致します。

神社や寺の見学は、観光対象物として建物を見せることは問題ありません。しかし信仰している宗教上の都合や強い信仰心のために、神社仏閣へ行くことに抵抗を感じる場合や礼拝などできない人もいますので、意思確認が必要です。



(7) お別れのとき

お土産は特に用意する必要はありません。お国によっては、ホストファミリーへのお土産を持参する場合があります。しかし、十分に家庭でおもてなしをしていますので、それ以上のお気遣いを遣わないでください。

どうしても何か持たせたい場合は、写真や手作りの品が喜ばれます。

なお、個人情報保護の観点から、帰国後に連絡先をお伝えすることはできません。住所やメールアドレスの交換は、当事者同士でお願い致します。

3 その他

(1) 費用について

ホームステイに伴う費用は、市川市国際交流教会からゲスト一人/一泊 2000 円の補助費とゲスト初日・最終日の送迎にかかる交通費をお支払いいたします。ただし、交通費に関して制限があります。詳しくはその都度ご説明いたします。

家庭での食事、宿泊の諸経費は、受け入れ家庭に負担をお願いいたします。ゲストの観光見学や通信その他の個人的な費用は、ゲスト本人が負担しますので、確認しておくが良いでしょう。受け入れ家庭の好意で負担してあげる場合には、「今日は、私がお招待します。」とあらかじめ伝えてあげると、案心して出かけられます。

(2) 病気や怪我など緊急時のとき

まんいち、ゲストが病気や怪我をしたときは、あらかじめ指示された連絡先にご連絡ください。医療機関で治療を受ける場合は、海外旅行障害保険から支払われます。

最後に

「案ずるより産むが易し」というのが、今までにホームステイ・ホームビジットを経験された多くの方たちのご意見です。一緒に生活してみると、色いろな共通点や違いを感じることでしょう。

お互いの持っている違いをありのままに認めて、尊重し合うところから国際理解は始まるのではないのでしょうか。ゲストとのコミュニケーションは言葉より心です。



4 ホームステイを受け入れたホストファミリーのひとこと

：初めての受け入れでしたが、文化や宗教の違い・学校教育の違いなど色いろな話が聞け、親子ともどもいい経験ができました。

：近場のショッピングやスーパーなど以外に楽しめます。

：言葉に少々不安がありましたが、簡単な単語と身振り手振りでどうにかコミュニケーションがとれました。積極性と気持ちで、お互い無理せず楽しめたと思います。

：日本の音楽や漫画など世界的に人気があるので、共通の話題になりました。

：習字や茶道・浴衣などの文化紹介は喜ばれました。

：特別扱いせず普段の生活ペースで食事や会話など、日本の生活体験をさせることができました。

：食事はお国柄や宗教・好みなどが有りますので本人が食べられるものを用意し、日本独特の納豆・梅干・豆腐・味噌汁・ところてん等は紹介程度に。

：今まで好評だった食べ物は、コロッケ・焼きそば・チャーハン・野菜の天麩羅・オムライスなどでした。

：言葉や年齢に関係なく、心と心の結びつきで楽しめたことが良かった。

：案ずるより生むが易し。家族の一員として緊張を取り除きなんでも話せる雰囲気作り。本人の趣味などから話題を広げました。

5 ホームステイした青少年のひとこと

：日本はとても綺麗で清潔で、日本の人はとても親切な印象を持ちました。

：日本の交通機関、特に電車は素晴らしく切符の買い方・ホームの見分け方や車内の様子、規則正しく走る電車やマナーの良い乗客などはとても驚きました。

: 日本の家族は優しく、宗教に寛容な心を持ち理解してもらったので有り難く感謝でした。
: 私の人生で最高の体験をすることができました。また必ず日本に戻ってきます。できたら、日本で働きたいくらいです。

市川市では、行政と民間で色いろなかたちで行ってきた市川市国際交流の中から、「いちかわ国際交流連合協議会」愛称「ウイングいちかわ」が 1997 年 3 月 22 日に設立されました。その後「海外都市グループ」と一緒になり「市川市国際交流協会」愛称 I.I.A は 2001 年 2 月 3 日に設立され現在に至っています。

国際交流都市

1962 年から姉妹都市 ガーデナ (アメリカ)
1981 年から友好都市 樂山 (中国)
1989 年から姉妹都市 メダン (インドネシア)
2004 年からパートナーシティとして、ローゼンハイム (ドイツ)
2012 年からパートナーシティとして、イッシーレムリノー (フランス)

1997 年 初版発行 市川市国際交流連絡協議会
2004年 改定第二版発行
2012年 改定第 3 版発行

企画・編集・発行 市川市国際交流協会 ホームステイ・ビジット委員会
〒272-0021 市川市八幡 2-4-8 八幡市民談話室 6 階
Tel 047-332-0100 Fax 047-332-0101
e-mail:info@iia21.jp